

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(6月17日～6月23日)

2024年6月27日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ラッセル・ドラミニ・エスワティニ首相一行のベラルーシ実務訪問(6月20日)
- チハノフスカヤ民主勢力代表は、ミルゾヤン・アルメニア外務大臣と会談(6月20日)
- ポーランドは対ベラルーシ国境の全面的な封鎖を検討(6月22日)

【外交】

●ルカシェンコ大統領の反ユダヤ主義的発言を受けて、イスラエルで開催予定だったベラルーシの解放80周年イベントの実施を中止

・6月14日、ルカシェンコ大統領は、ブリュッセル前農業食糧大臣の汚職に関し、同氏とともに刑事事件にかけられている者が30人おり、「その半数以上がユダヤ人である。彼らは盗みを行い、自分たちの将来について考えていない」と発言。

・「ポジルク」の情報筋によれば、上記発言を受け、イスラエルで6月27日に開催予定であった、ベラルーシのドイツ軍からの解放80周年に関連する会議が中止された。同会議は、在イスラエル・ベラルーシ大使館の後援のもとで行われる予定だった。

(6月18日 ポジルク、「ゼルカロ(鏡)」)

●ラッセル・ドラミニ・エスワティニ首相一行のベラルーシ実務訪問

・6月20日未明、ラッセル・ドラミニ・エスワティニ首相がミンスクに到着。同首相には内務大臣リンディウエ王女とチャウケ農業大臣も随行。

・同日、一行はゴロフチェンコ首相と会談。その後、国営「ミンスク・トラクター工場(MTZ)」や医療機関を視察した他、イヴァネツ教育大臣とも別途会談。

・ゴロフチェンコ首相は両国首相会談の席上、ベラルーシが互いに対する尊敬、友好、開放性を基本として対アフリカ諸国外交に力を入れていること、アフリカに技術と知識をもたらし、人材育成に貢献していることを強調。

・またゴロフチェンコ首相は、エスワティニとの協力に関し、特にベラルーシ製機械製品の輸出、医療や高

等教育の分野における協力、治安維持や軍事的安全保障にかかる経験・知識・必要な基盤等の共有に言及。

(6月20日 国営ベルタ通信)

●アレニク外務大臣は、集団安全保障条約機構(CSTO)外務大臣会合に出席(於:カザフスタン)

・アレニク外務大臣は、同会合にて演説し、スイスで開催されたウクライナの平和に関するサミットが、ベラルーシ及びロシアの参加なしに行われたことを非難。

・さらに、欧州地域の継続的な軍事化、NATO加盟国による国防費の増加、攻撃力の蓄積、ベラルーシ国境付近を含む軍事活動の激化に懸念を表明。

(6月21日 外務省)

【内政】

●ヴァチョルカ・チハノフスカヤ民主勢力代表顧問に対し、欠席裁判で20年の自由剥奪刑の判決

(6月20日 ベラルーシ検察)

●6月21日現在の政治犯の数は1,424人

(6月21日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)による「軍備・軍縮・国際安全保障に関する年鑑2024」の発表

同年鑑のうち、ベラルーシの核配備に関する記述は以下のとおり。

・注目すべきことに、2023年にロシアがベラルーシ領に核兵器を配備したとの公式な声明が複数回出されているものの、ロシアからベラルーシ領への核兵器の

配備が実際に行われたことを示す決定的かつ視覚的な証拠はない。

(6月17日 スtockホルム国際平和研究所(SIPRI))

●ポーランドは対ベラルーシ国境の全面的な封鎖を検討

・6月22日、シコルスキ・ポーランド外務大臣は、ベラルーシ側からの不法移民の流入を防止すべく、対ベラルーシ国境の全面的な閉鎖を検討中である旨発言。
・同発言を受け、チハノフスカヤ民主勢力代表は及びラトウシコ元文化大臣は、一般のベラルーシ人が通行できる可能性を維持するよう呼びかけ。

(6月22日 ポジルク)

●フレニン国防大臣は、ベラルーシ国内における「ワグネル」の活動継続につき発言

・フレニン国防大臣は、国営「首都テレビ(STV)」のインタビューにおいて、「ワグネル」の傭兵らが引き続きベラルーシ軍の兵士らに戦闘経験を共有し、訓練を行っている旨発言。

・また、同大臣は、ロシアとの戦術核兵器の演習について、ベラルーシは今後も自国のレベルを維持するため、同様のイベントを行う予定である旨発言。

(6月23日 国営「首都テレビ(STV)」、ポジルク)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(1)6月17日～6月23日の不法越境の試み

・リトアニア国境警備局は少なくとも1人を阻止。
・ラトビア国境警備隊は少なくとも74人を阻止。
・ポーランド国境警備隊は少なくとも468人を阻止。

(2)ポーランドによる緩衝地帯の設置とその後の状況の変化

・6月13日、ポーランドは、警官、国境警備隊、軍人を含む住民の安全を保障するため、ベラルーシとの国境に緩衝地帯を設置し、国境地帯の特定の場所での滞在を90日間禁止。

・ポーランド内務省によれば、6月13日～19日までの不法越境の試みは約750件で、前週の6月6日～12日(1,100件以上)と比較し、約30%減少した。一方、不法移民によるポーランド国境警備隊への暴力行為は

5件から11件に増加。また、緩衝地帯では、滞在許可証が33件発行された(うち、ジャーナリスト:28件、国際NGOの代表者:5件)。

(6月18日～6月24日 ポジルク)

【治安・犯罪】

●アルメニアは、ベラルーシ当局の要請で拘束していたベラルーシ人男性の亡命を認める

・男性は、本年2月にエレバンにて、ベラルーシ当局が兵役逃れを理由に指名手配したため、拘束された。また、男性はベラルーシで2020年の大規模抗議活動に参加しており、その後14日間拘束されていた経験があった。

・本年3月、男性はアルメニアに亡命を申請し、6月19日、釈放され、亡命を認められた。

・本年5月にも、同様にアルメニアで拘束されていたベラルーシ人男性の亡命が認められたという事例がある。

(6月21日 「ゼルカロ(鏡)」)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

(1)ペイチノヴィチ＝ブリッチ欧州評議会事務局長との会談

・ベラルーシの欧州評議会加盟に向けたロードマップの作成、ビリニウスにおける欧州評議会情報センターの設立等につき協議。

(2)ミルゾヤン・アルメニア外務大臣との会談

・ベラルーシ、アルメニア、地域全般における政治情勢につき協議。また、ベラルーシの民主勢力と、アルメニアの政府・議会・市民団体との協力についても協議。

・ベラルーシ人の状況やアルメニア在留ベラルーシ人の状況につき別途協議し、特にルカシェンコ政権の求めに応じてベラルーシ国民を引き渡したりしないように念押し。

・チハノフスカヤ氏は、アルメニアとベラルーシの民主勢力の間の緊密な協力継続を希望する旨述べ、アルメニア・ベラルーシ両国民には、自由で民主的な欧州の国としての未来がふさわしいと強調。

・チハノフスカヤ氏とアルメニア高官の会談は2度目。
2023年10月5日、スペインのグラナダで開催された
欧州政治共同体(EPC)のフリンジにおいて、チハノフ
スカヤ氏は、パシニャン・アルメニア首相及びミルゾヤ
ン・アルメニア外務大臣と会談し、当時のナゴルノ・カ
ラバフの状況を踏まえてアルメニア国民を支持する旨
発言している。

(6月20日 チハノフスカヤ氏 Telegram、ポジルク、
Reform.news、25日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

(了)